



ミキサー車で建売住宅の建設現場に生コンクリートを輸送

生コン輸送を開始

労働規制 食品物流と組み合わせ

【東京】大手スーパー向け温度管理物流を手掛ける日本WeP流通(安田修社長、東京都武蔵村山市)は12月から、新たな業務としてミキサー車による生コンクリート輸送を始めている。今後強化される労働時間規制に対応するため、コア事業の食品物流と異業種の荷物を組み合わせることで、多様な働き方を確立できないか模索を続けている。また、新人ドライバーに業務経験を積ませるため、普通自動車免許でもできる仕事の開拓も進め、次世代の育成にも力を入れていきたい考えだ。(佐々木健)

日本WeP流通

多様な働き方 模索

導入したのは1・5立方メートルの波宏之執行役員は「当初は、新入したの1・5立方メートルの波宏之執行役員は「当初は、新入したの1・5立方メートルの波宏之執行役員は「当初は、新入したの1・5立方メートルの波宏之執行役員は」

もできる業務ではない」と話す。新人活用は困難だが、食品以外の分野の開拓という目的もあり、ミキサー車の増車や新拠点建設も検討課題に入っている。

同社では2年前に建設資材輸送に参入。2ト平ボディトラックを使い、多摩エリア中心に運行する。車両サイズが新卒ドライバー向きだった。4トや大型トラックに移行する準備期間として走らせている。

働き方改革でドライバーの労働時間は減っていく。その時、主力事業である食品物流と別の業務があれば、隙間時間に組み入れ、ドライバーの働ける業務を増やすことができる。

十分な荷物量と車両、整備工場や拠点もある中で、短時間の仕事を組み合わせ、時間を優先したいドライバーや収入を重視するドライバー、それぞれの要望に最適な配車を組み立てようとしている。新しい働き方への対応は道半ばだ。